

SQL Server 2016 Reporting Services (ネイティブ モード) 用 Microsoft System Center 管理パック ガイド

Microsoft Corporation

公開日: 2016 年 12 月

管理パックに関するフィードバックを Operations Manager チーム ([sqlmpsfeedback@microsoft.com](mailto:sqlmpsfeedback@microsoft.com)) にお送りください。

著作権

このドキュメントは現状有姿で提供されます。このドキュメントに記載されている情報や見解 (URL 等のインターネット Web サイトに関する情報を含む) は、将来予告なしに変更されることがあります。お客様は、その使用に関するリスクを負うものとします。

ここで使用される例は架空のものであり、説明のためだけに使用されます。実在するものとは一切関係ありません。

このドキュメントは、Microsoft 製品の無体財産権に関する法的な権利をお客さまに許諾するものではありません。内部的な参照目的に限り、このドキュメントを複製して使用することができます。内部的な参照目的に限り、このドキュメントを変更することができます。

© 2016 Microsoft Corporation.All rights reserved.

Microsoft、Active Directory、Windows、および Windows Server は、Microsoft Corporation およびその関連会社の商標です。

記載されている会社名、製品名には、各社の商標のものもあります。

目次

[ガイドの履歴 5](#_Toc469566235)

[作業の開始 5](#_Toc469566236)

[サポートされている構成 5](#_Toc469566237)

[監視パックのスコープ 6](#_Toc469566238)

[前提条件 7](#_Toc469566239)

[この監視パックのファイル 8](#_Toc469566240)

[必須の構成 8](#_Toc469566241)

[監視パックの目的 9](#_Toc469566242)

[監視シナリオ 9](#_Toc469566243)

[SQL Server 2016 Reporting Services インスタンスの検出 9](#_Toc469566244)

[SQL Server 2016 Reporting Services 展開の検出 10](#_Toc469566245)

[SQL Server 2016 Reporting Services コンポーネントの可用性 11](#_Toc469566246)

[SQL Server 2016 Reporting Services インストールのパフォーマンス 11](#_Toc469566247)

[ヘルスのロールアップのしくみ 12](#_Toc469566248)

[管理パックの構成 13](#_Toc469566249)

[ベスト プラクティス: カスタマイズ用の管理パックの作成 13](#_Toc469566250)

[監視パックをインポートする方法 14](#_Toc469566251)

[エージェント プロキシ オプションを有効にする方法 14](#_Toc469566252)

[実行プロファイルを構成する方法 14](#_Toc469566253)

[セキュリティの構成 15](#_Toc469566254)

[実行プロファイル 15](#_Toc469566255)

[管理 15](#_Toc469566256)

[低い特権の環境 16](#_Toc469566257)

[Operations Manager コンソールによる情報の表示 18](#_Toc469566258)

[バージョンに依存しない (汎用) ビューとダッシュボード 18](#_Toc469566259)

[SQL Server 2016 Reporting Services ビュー 19](#_Toc469566260)

[ダッシュボード 19](#_Toc469566261)

[リンク 20](#_Toc469566262)

[付録: 監視パックのビューとダッシュボード 21](#_Toc469566263)

[付録: 監視パックのオブジェクトとワークフロー 22](#_Toc469566264)

[ヘルス サービス 22](#_Toc469566265)

[ヘルス サービス - 検出 22](#_Toc469566266)

[Microsoft SQL Server 2016 Reporting Services (ネイティブ モード) 22](#_Toc469566267)

[Microsoft SQL Server 2016 Reporting Services (ネイティブ モード) - 検出 22](#_Toc469566268)

[Microsoft SQL Server 2016 Reporting Services (ネイティブ モード) - ユニット モニター 23](#_Toc469566269)

[Microsoft SQL Server 2016 Reporting Services (ネイティブ モード) - ルール (非警告) 30](#_Toc469566270)

[Microsoft SQL Server 2016 Reporting Services インスタンス シード 34](#_Toc469566271)

[Microsoft SQL Server 2016 Reporting Services インスタンス シード - 検出 34](#_Toc469566272)

[Microsoft SQL Server 2016 Reporting Services インスタンス シード - ルール (非警告) 34](#_Toc469566273)

[サーバー ロール グループ 35](#_Toc469566274)

[サーバー ロール グループ - 検出 35](#_Toc469566275)

[SQL Server アラート スコープ グループ 35](#_Toc469566276)

[SQL Server アラート スコープ グループ - 検出 35](#_Toc469566277)

[SQL Server コンピューター 35](#_Toc469566278)

[SQL Server コンピューター - 検出 35](#_Toc469566279)

[SSRS 2016 展開 36](#_Toc469566280)

[SSRS 2016 展開 - 検出 36](#_Toc469566281)

[SSRS 2016 展開 - ユニット モニター 36](#_Toc469566282)

[SSRS 2016 展開 - 依存関係 (ロールアップ) モニター 37](#_Toc469566283)

[SSRS 2016 展開シード 38](#_Toc469566284)

[SSRS 2016 展開シード - 検出 38](#_Toc469566285)

[SSRS 2016 展開ウォッチャー 39](#_Toc469566286)

[SSRS 2016 展開ウォッチャー - 検出 39](#_Toc469566287)

[SSRS 2016 展開ウォッチャー - ユニット モニター 39](#_Toc469566288)

[SSRS 2016 展開ウォッチャー - ルール (非警告) 42](#_Toc469566289)

[SSRS 2016: 警告スコープ グループ 47](#_Toc469566290)

[SSRS 2016: 警告スコープ グループ - 検出 47](#_Toc469566291)

[SSRS 2016: 展開グループ 47](#_Toc469566292)

[SSRS 2016: 展開グループ - 検出 47](#_Toc469566293)

[SSRS 2016: インスタンス グループ 47](#_Toc469566294)

[SSRS 2016: インスタンス グループ - 検出 47](#_Toc469566295)

[SSRS: 展開グループ 47](#_Toc469566296)

[SSRS: 展開グループ - 検出 47](#_Toc469566297)

[SSRS: インスタンス グループ 48](#_Toc469566298)

[SSRS: インスタンス グループ - 検出 48](#_Toc469566299)

[付録: 実行プロファイル 48](#_Toc469566300)

[付録: 既知の問題とリリース ノート 50](#_Toc469566301)

# SQL Server 2016 Reporting Services (ネイティブ モード) 用 Microsoft System Center 管理パック ガイド

このガイドは、バージョン 6.7.15.0 の SQL Server 2016 Reporting Services (ネイティブ モード) 用 Microsoft System Center 管理パックに基づいて作成されました。

## ガイドの履歴

| **リリース日** | **[変更点]** |
| --- | --- |
| 2016 年 12 月 (バージョン 6.7.15.0 RTM) | * コンピューター ホスト名が 16 文字以上の場合の構成に対するサポートが追加されました * 修正済み: Web サービス モニターが、URL 予約 https://+:<port>/<ReportServerPage> (プロトコルは HTTPS) をサポートしない * Visualization Library を更新 |
| 2016 年 6 月 | * Visualization Library を更新 * 実行プロファイルを GPMP ライブラリに表示し、2016 以降のすべての SQL Server MP 用の汎用プロファイルにする準備を完了 |
| 2016 年 3 月 | このガイドのオリジナル リリース |

## 作業の開始

このセクションの内容:

* [サポートされている構成](#_Supported_Configurations)
* [管理パックのスコープ](#_Monitoring_Pack_Scope)
* [前提条件](#_Prerequisites)
* [必須の構成](#_Mandatory_Configuration)

### サポートされている構成

この監視パックは、System Center Operations Manager の次のバージョン用に設計されています。

* System Center Operations Manager 2012 (ダッシュボードを除く)
* System Center Operations Manager 2012 SP1
* System Center Operations Manager 2012 R2
* System Center Operations Manager 2016

専用の Operations Manager 管理グループは、この監視パックには必要ありません。

次の表に、SQL Server 2016 Reporting Services (ネイティブ モード) 用 Microsoft System Center 管理パックでサポートされる構成の詳細を示します。

|  |  |
| --- | --- |
| **構成** | **サポート** |
| SQL Server Reporting Services (ネイティブ モード) | * 64 ビット OS 上の 64 ビット SQL Server 2016 Reporting Services |
| レポート サーバー データベースをホストする SQL Server データベース エンジン | * 64 ビットの SQL Server 2014 データベース エンジン + 64 ビットの OS * 64 ビットの SQL Server 2016 データベース エンジン + 64 ビットの OS |
| クラスター化されたサーバー | いいえ |
| エージェントレス監視 | サポートされていません |
| 仮想環境 | 可 |

### 監視パックのスコープ

SQL Server 2016 Reporting Services (ネイティブ モード) 用 Microsoft System Center 管理パックは、次の機能を監視できます。

* SQL Server 2016 Reporting Services インスタンス (ネイティブ モード)
* SQL Server 2016 Reporting Services のスケールアウト配置

重要

エージェントレス監視は、SQL Server 2016 Reporting Services (ネイティブ モード) 用 Microsoft System Center 管理パックではサポートされていません。

注

この監視パックでサポートされる監視シナリオの完全な一覧については、「[シナリオの監視](#_Monitoring_Scenarios)」セクションを参照してください。

注

詳細情報と、セットアップと構成の詳しい手順については、このガイドの「[SQL Server 2016 Reporting Services 用 Microsoft System Center 管理パックの構成](#_Configuring_the_Management)」セクションを参照してください。

注

この監視パックは、SSRS カタログ データベースと SSRS 一時データベースの両方のデータベース オブジェクトを検出しません。SSRS データベースの検出、監視、正常性のロールアップを有効にする SQL Server 用監視パックをインポートすることをお勧めします。この監視パックは、SQL Server 用監視パックに依存しません。つまり、SQL Server 用監視パックのインストールは省略可能です。

### 前提条件

ベスト プラクティスとして、使用しているオペレーティング システム用の Windows Server 管理パックをインポートすることをお勧めします。Windows Server 管理パックは、ディスク容量、ディスク パフォーマンス、メモリ使用率、ネットワーク アダプターの使用率、プロセッサのパフォーマンスなど、SQL Server Reporting Services を実行しているコンピューターのパフォーマンスに影響を与えるオペレーティング システムの側面を監視します。

### この監視パックのファイル

SQL Server 2016 Reporting Services (ネイティブ モード) 用 Microsoft System Center 管理パックには、次のファイルが含まれています。

| ファイル | **説明** |
| --- | --- |
| Microsoft.SQLServer.2016.ReportingServices.Discovery.mpb | この管理パックは、Microsoft SQL Server 2016 Reporting Services (ネイティブ モード) と関連オブジェクトを検出します。管理パックには検出ロジックのみが含まれており、検出されたオブジェクトを監視するには、個別の監視管理パックをインポートする必要があります。 |
| Microsoft.SQLServer.2016.ReportingServices.Monitoring.mpb | Microsoft SQL Server 2016 Reporting Services (Monitoring, Native Mode) 管理パックにより、Microsoft SQL Server 2016 Reporting Services (Monitoring, Native Mode) を監視できます。 |
| Microsoft.SQLServer.2016.ReportingServices.Presentation.mp | この管理パックは、Microsoft SQL Server 2016 Reporting Services (ネイティブ モード) のダッシュボードを定義します。 |
| Microsoft.SQLServer.2016.ReportingServices.Views.mp | この管理パックは、Microsoft SQL Server 2016 Reporting Services (ネイティブ モード) のビューを定義します。 |
| Microsoft.SQLServer.Generic.Dashboards.mp | この管理パックは、SQL Server ダッシュボードに必要な共通のコンポーネントを定義します。 |
| Microsoft.SQLServer.Generic.Presentation.mp | この管理パックは、共通のフォルダー構造およびビューを定義します。 |
| Microsoft.SQLServer.Visualization.Library.mpb | Microsoft SQL Server Visualization Library には、SQL Server ダッシュボードに必要な基本ビジュアル コンポーネントが含まれています。 |

### 必須の構成

SQL Server 2016 Reporting Services (ネイティブ モード) 用 Microsoft System Center 管理パックを構成するには、次の手順を実行します。

* このガイドの「[SQL Server 2016 Reporting Services (ネイティブ モード) 用 Microsoft System Center 管理パックの構成](#_Configuring_the_Management)」セクションを参照してください。
* このガイドの「[セキュリティの構成](#_Security_Configuration)」セクションの説明に従って必要な権限を付与します。
* SQL Server 2016 Reporting Services のインスタンス、または個別の SSRS カタログ データベースがホストされている SQL Server インスタンスをホストするサーバーにインストールされているすべてのエージェントに対して、エージェント プロキシ オプションを有効にします。エージェント プロキシ オプションを有効にする方法の詳細については、このガイドの「[エージェント プロキシ オプションを有効にする方法](#_How_to_enable)」セクションを参照してください。
* 監視パックをインポートします。
* Microsoft SQL Server 2016 の実行プロファイルを適切なアクセス許可を持つアカウントに関連付けます。実行プロファイルの構成の詳細については、このガイドの「[実行プロファイルを構成する方法](#_How_to_configure)」セクションを参照してください。
* レポート サーバー データベースをホストする SQL Server インスタンスの TCP/IP プロトコルが有効になっていることを確認します。
* SQL Server Browser サービスは、Reporting Services の検出と監視に必須です。SQL Server Browser は、Reporting Services がインストールされているコンピューター、およびレポート サーバー データベースをホストする、SQL Server インスタンスがインストールされているコンピューターにインストールし、有効にする必要があります。

## 監視パックの目的

このセクションの内容:

* [監視シナリオ](#_Monitoring_Scenarios)
* [ヘルスのロールアップのしくみ](#_How_Health_Rolls)

注

この監視パックに含まれている検出、ルール、モニター、およびビューについての詳細は、このガイドの次のセクションをご覧ください。

* [付録: 管理パックのオブジェクトとワークフロー](#_Appendix:_Monitoring_Pack)
* [付録: 管理パックのビューとダッシュボード](#_Appendix:_Monitoring_Pack_1)

### 監視シナリオ

#### SQL Server 2016 Reporting Services インスタンスの検出

SQL Server 2016 Reporting Services (ネイティブ モード) 用 Microsoft System Center 管理パックでは、SSRS 2016 のインスタンスが自動的に検出されます。これを有効にするために、監視パックは、次のワークフローを実装します。

1. 監視パックは、サーバー上に SQL Server 2016 Reporting Services のインストールが存在するかを検出するためにレジストリを読み取ります。インストールが検出された場合、監視パックにより、"シード" オブジェクトが作成されます。
2. "シード" オブジェクトが検出された場合は、監視パックはさまざまなデータ ソース (レジストリ、WMI、SSRS の構成ファイルなど) を読み取って、インスタンスのプロパティと "展開シード" オブジェクトを検出します。

注

"展開シード" オブジェクトは、ホストされていないオブジェクトであり、SCOM 管理サーバーによって管理されます。

注

すべての必要なデータ ソースにアクセスするには、適切なアクセス許可が必要です。詳細については、このガイドの「[セキュリティの構成](#_Security_Configuration)」を参照してください。

#### SQL Server 2016 Reporting Services 展開の検出

SQL Server 2016 Reporting Services (ネイティブ モード) 用 Microsoft System Center 管理パックでは、SQL Server 2016 Reporting Services の展開が自動的に検出されます。展開には、次のコンポーネントが含まれます。

1. SQL Server 2016 Reporting Services の 1 つまたは複数のインスタンス
2. SSRS カタログ SQL Server データベース
3. SSRS 一時 SQL Server データベース

SSRS インスタンスの一覧と、別のサーバーで検出されたデータベースの一覧を取得するために、SCOM 管理サーバーで展開の検出が実行され、SCOM API が照会されます。

展開の検出では、"展開" オブジェクトだけでなく、"展開ウォッチャー" オブジェクトも作成されます。両方のオブジェクトは、ホストされません。

SSRS のスケールアウト配置は本質的に分散アプリケーションであるため、各種の SSRS コンポーネントの正常性を組み合わせて、それぞれの SCOM オブジェクトをグループ化することを目的として、"展開" オブジェクトが管理サーバーによって管理されます。

"展開ウォッチャー" は補助オブジェクトで、SSRS カタログ データベースをホストするサーバーにインストールされているエージェント、または特定の展開から SSRS インスタンスの 1 つをホストするエージェントによって管理されます。このオブジェクトを使用して、SQL Server 2016 Reporting Services 展開全体に関する情報を収集します。

注

すべての必要なデータ ソースにアクセスするには、適切なアクセス許可が必要です。詳細については、このガイドの「[セキュリティの構成](#_Security_Configuration)」を参照してください。

注

SQL Server 2016 Reporting Services (ネイティブ モード) 用 Microsoft System Center 管理パックは、SSRS カタログ データベースと SSRS 一時データベースのデータベース オブジェクトを検出しません。この機能を有効にするには、SQL Server 用 SCOM 監視パックをインストールする必要があります。

#### SQL Server 2016 Reporting Services コンポーネントの可用性

この監視パックには、SSRS 展開と SSRS インスタンスの両方の監視を有効にするモニターのセットが導入されています。モニターは、次の観点からこれらのコンポーネントの可用性を確認します。

* SSRS 展開:
  + SSRS カタログ データベースにアクセスできる
  + SSRS 一時データベースにアクセスできる
  + 共有データ ソースへの壊れた参照がない
  + レポート実行の失敗 (レポート実行の合計パーセンテージで表されます) の数がしきい値未満
  + 展開内のすべてのインスタンスが検出される
* SSRS インスタンス:
  + SSRS カタログ データベースにアクセスできる
  + SSRS 一時データベースにアクセスできる
  + SSRS Windows サービスが開始されている
  + SSRS Web サービスにアクセスできる
  + SSRS レポート マネージャーにアクセスできる
  + SSRS インスタンスが大量の CPU リソースを使用していない
  + SSRS インスタンスが大量のメモリ リソースを使用していない
  + SSRS インスタンスと SQL Server データベース エンジンとでメモリ構成が競合していない (両方のコンポーネントが同じサーバーで実行されている場合)
  + その他のプロセスによって SSRS インスタンスのメモリ リソースが不足しない
  + 1 分あたりのレポート実行の失敗数が、特定の SSRS インスタンスのしきい値未満

注

SQL Server 2016 Reporting Services (ネイティブ モード) 用 Microsoft System Center 管理パックは、SQL Server データベースの観点から SSRS カタログ データベースと SSRS 一時データベースの正常性を確認しません。この機能を有効にするには、SQL Server 用 SCOM 監視パックをインストールする必要があります。

注

一部のモニターは既定では無効になっています。監視パックで実装された監視ワークフローの詳細については、このガイドの｢[付録: 管理パックのオブジェクトとワークフロー](#_Appendix:_Monitoring_Pack)｣セクションを参照してください。

#### SQL Server 2016 Reporting Services インストールのパフォーマンス

この監視パックは、次のパフォーマンス メトリックを収集します。

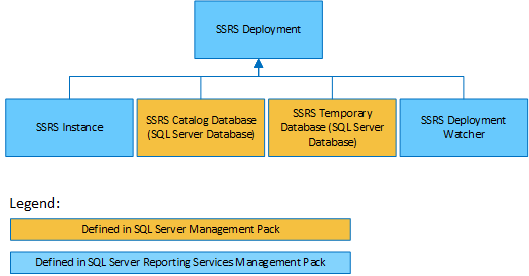
* SSRS 展開:
  + 失敗したレポート実行数/分
  + レポート実行数/分
  + レポート数
  + 共有データ ソースの数
  + サブスクリプション数
  + オンデマンド実行の失敗数/分
  + オンデマンド実行数/分
  + スケジュールされた実行の失敗数/分
  + スケジュールされた実行数/分
* SSRS インスタンス:
  + CPU 使用率 (%)
  + WorkingSetMaximum (GB)
  + WorkingSetMinimum (GB)
  + 他のプロセスによるメモリ消費量 (%)
  + SSRS によるメモリ消費量 (GB)
  + サーバー上のメモリ合計 (GB)
  + サーバー上のメモリ消費量合計 (GB)
  + 失敗したレポート実行数/分
  + レポート実行数/分

注

監視パックで実装された監視ワークフローの詳細については、このガイドの｢[付録: 管理パックのオブジェクトとワークフロー](#_Appendix:_Monitoring_Pack)｣セクションを参照してください。

### ヘルスのロールアップのしくみ

次の図に、オブジェクトの正常性状態がこの監視パックでロールアップされるしくみを示します。



## 管理パックの構成

このセクションでは、この監視パックの構成およびチューニングについて説明します。

このセクションの内容:

* [ベスト プラクティス: カスタマイズ用の管理パックの作成](#_Best_Practice:_Create)
* [管理パックをインポートする方法](#_How_to_import)
* [エージェント プロキシ オプションを有効にする方法](#_How_to_enable)
* [実行プロファイルを構成する方法](#_How_to_configure)
* [セキュリティの構成](#_Security_Configuration)
  + [実行プロファイル](#_Run_As_Profiles)
  + [必要な権限](#_Required_permissions)

### ベスト プラクティス: カスタマイズ用の管理パックの作成

SQL Server 2016 Reporting Services (ネイティブ モード) 用 Microsoft System Center 管理パックは封印されているので、管理パック ファイルの元の設定は一切変更できません。ただし、上書き、新しい監視オブジェクトなどのカスタマイズを作成し、それらを別の管理パックに保存することができます。Operations Manager の既定では、すべてのカスタマイズは既定の管理パックに保存されます。代わりに、ベスト プラクティスとして、カスタマイズする封印された各管理パックごとに個別の管理パックを作成することをお勧めします。

上書きを格納する新しい管理パックを作成することにより、次の利点を得ることができます。

• 封印された管理パック用にカスタマイズした設定を保存するために管理パックを作成するときは、カスタマイズしている管理パックの名前を基に、"Microsoft SQL Server 2016 Reporting Service 上書き" のように新しい管理パックの名前を付けると便利です。

* 封印された管理パックごとのカスタマイズ設定を保存するために新しい管理パックを作成すると、カスタマイズ設定をテスト環境から運用環境にエクスポートする処理が簡単になります。また、管理パックを削除する前に依存関係を削除する必要があるため、こうすることで管理パックの削除も簡単になります。すべての管理パックのカスタマイズ設定を既定の管理パックに保存しておくと、1 つの管理パックを削除するときにまず既定の管理パックを削除する必要があるため、他の管理パックのカスタマイズ設定も削除されてしまいます。

封印された管理パックと封印されていない管理パックの詳細については、「[管理パックの形式](http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkId=108355)」を参照してください。管理パックのカスタマイズおよび既定の管理パックの詳細については、「[管理パックについて](http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkId=108356)」を参照してください。

カスタマイズ用の新しい管理パックを作成する方法

|  |
| --- |
| 1. オペレーション コンソールを開き、[管理] ボタンをクリックします。  2. [管理パック] を右クリックし、[新しい管理パックの作成] をクリックします。  3. 名前 (例: SQLMP カスタマイズ) を入力して、[次へ] をクリックします。  4. [作成] をクリックします。 |

### 監視パックをインポートする方法

管理パックのインポートの詳細については、「[Operations Manager 管理パックをインポートする方法](http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkId=717831)」をご覧ください。

### エージェント プロキシ オプションを有効にする方法

**エージェント プロキシ オプション**を有効にするには、次の手順を実行します。

1. オペレーション コンソールを開き、[**管理**] ボタンをクリックします。

2. [管理者] ウィンドウで [エージェントで管理] をクリックします。

3. 一覧内のエージェントをダブルクリックします。

4. [セキュリティ] タブで、[このエージェントをプロキシとして動作させ、他のコンピューター上の管理オブジェクトを検出する] をクリックします。

### 実行プロファイルを構成する方法

実行プロファイルを構成するには、次の手順を完了します。

1. 既定のアクション アカウントの権限が SQL Server 2016 Reporting Services の監視には不十分であるターゲット コンピューターの名前を識別します。
2. 各システムに対して既存の資格情報のセットを使用するか、または新しいセットを作成します。この資格情報に必要な最小限の権限のセットについては、この管理パック ガイドの「[セキュリティの構成](#_Security_Configuration)」のセクションを参照してください。
3. 手順 2. で識別した資格情報のセットに対して、それぞれに対応する**実行アカウント**が管理グループに存在することを確認します。必要に応じて**実行アカウント**を作成します。
4. 各**実行プロファイル**の [実行アカウント] タブで、ターゲットと**実行アカウント**のマッピングを設定します。

注

SQL Server 2016 Reporting Services (ネイティブ モード) 用 Microsoft System Center 管理パックで定義されている実行プロファイルの詳細については、「[実行プロファイル](#_Run_As_Profiles)」セクションをご覧ください。

注

「[付録: 実行プロファイル](#_Appendix:_Run_As)」セクションの検出、ルール、モニターの完全な一覧を参照して、各**実行プロファイル**に関連付けられているルールとモニターを特定してください。

### セキュリティの構成

このセクションでは、この監視パックのセキュリティの構成について説明します。

このセクションの内容:

* [実行プロファイル](#_Run_As_Profiles)
* [低い特権の環境](#_Low-Privilege_Environments)

#### 実行プロファイル

SQL Server 2016 Reporting Services (ネイティブ モード) 用 Microsoft System Center 管理パックが最初にインポートされるときに、3 つの新しい実行プロファイルが作成されます。

* Microsoft SQL Server 2016 検出実行プロファイル
* Microsoft SQL Server 2016 監視実行プロファイル
* Microsoft SQL Server 2016 SCOM SDK 実行プロファイル

既定では、SQL Server 2016 Reporting Services 管理パックで定義されたすべての検出、モニター、およびルールは、"既定のアクション アカウント" 実行プロファイルで定義されたアカウントを使用します。システムの既定のアクション アカウントに SQL Server 2016 Reporting Services のインスタンスの検出または監視に必要な権限がない場合は、必要なアクセス権を持つ、Microsoft SQL Server 2016 Reporting Services 実行プロファイルの特定の資格情報に、これらのシステムをバインドできます。

**注**

実行プロファイルの構成の詳細については、このガイドの「[実行プロファイルを構成する方法](#_How_to_configure)」セクションを参照してください。

注

「[付録: 実行プロファイル](#_Appendix:_Run_As)」セクションの検出、ルール、モニターの完全な一覧を参照して、各**実行プロファイル**に関連付けられているルールとモニターを特定してください。

#### 管理

このセクションでは、SQL Server 2016 Reporting Services (ネイティブ モード) 用 Microsoft System Center 管理パックに必要なアクセス許可を構成する方法について説明します。この監視パック内のすべてのワークフロー (検出、ルール、モニター) は、「[実行プロファイル](#_Run_As_Profiles)」セクションに記載の各実行プロファイルにバインドされています。監視を有効にするには、実行アカウントに適切なアクセス許可を付与して、これらのアカウントをそれぞれの実行プロファイルにバインドします。次のサブセクションでは、オペレーティング システム、SQL Server、および SQL Server Reporting Services のレベルに権限を付与する方法について説明します。

注

SQL Server 2016 Reporting Services (ネイティブ モード) 用 Microsoft System Center 管理パックで定義されている実行プロファイルの詳細については、「[実行プロファイル](#_Run_As_Profiles)」セクションをご覧ください。

**注**

実行プロファイルの構成の詳細については、このガイドの「[実行プロファイルを構成する方法](#_How_to_configure)」セクションを参照してください。

注

「[付録: 実行プロファイル](#_Appendix:_Run_As)」セクションの検出、ルール、モニターの完全な一覧を参照して、各**実行プロファイル**に関連付けられているルールとモニターを特定してください。

#### 低い特権の環境

##### Active Directory で権限を構成するには

1. Active Directory で、レポート データベースをホストしている対象となるすべての SSRS インスタンスと SQL Server DBE インスタンスに低い特権でアクセスする際に通常使用する次の 3 つのドメイン ユーザーを作成します。

a. SSRSMonitoring

b. SSRSDiscovery

c. SSRSSDK

1. SSRSMPLowPriv というドメイン グループを作成し、次のドメイン ユーザーを追加します。

a. SSRSMonitoring

b. SSRSDiscovery

##### エージェント コンピューターでアクセス許可を構成するには

1. SSRSMPLowPriv グループにローカル管理者のアクセス許可を付与します。

##### SQL Server 2016 Reporting Services のインスタンスでアクセス許可を構成するには

1. Internet Explorer を開き、SSRS レポート マネージャーに接続します。
2. ページの右上隅の [サイトの設定] リンクをクリックして、[サイトの設定] ページに移動します。
3. [サイトの設定] ページの左側にある [セキュリティ] メニュー項目をクリックします。
4. [新しいロールの割り当て] をクリックします。
5. [新しいロールの割り当て] で、グループ名 (<ドメイン名>\SSRSMPLowPriv) を入力し、[システム管理者] チェック ボックスをオンにします。
6. [OK] ボタンをクリックして、変更内容を適用します。

##### SQL Server 2016 Reporting Services カタログ データベースでアクセス許可を構成するには

1. SQL Server Management Studio で、SSRS カタログ データベースをホストする SQL Server データベース エンジンのインスタンスに、"SSRSMPLowPriv" のログインを作成します。
2. SSRS カタログ データベースと一時データベース内の SSRSMPLowPriv ユーザーを作成します。
3. SSRS カタログ データベースと一時データベースの両方で、SSRSMPLowPriv に db\_datareader ロールを割り当てます。

##### System Center Operations Manager 管理サーバーで権限を構成するには

1. SSRSSDK アカウントにローカル管理者のアクセス許可を付与します。

##### System Center Operations Manager でアクセス許可を構成するには

1. SCOM コンソールを開き、[管理] ウィンドウに移動します。
2. [ユーザー ロール] ビュー ([セキュリティ] フォルダーの下にあります) を選択します。
3. [Operations Manager Operators (Operations Manager オペレーター)] ロールを右クリックし、コンテキスト メニューで [プロパティ] をクリックします。
4. [全般プロパティ] タブで [追加] ボタンをクリックします。
5. SSRSSDK ユーザーを見つけて [OK] をクリックします。
6. [OK] ボタンをクリックして変更を適用し、[ユーザー ロールのプロパティ] ダイアログ ボックスを閉じます。

##### System Center Operations Manager を構成するには

1. SQL Server 管理パックがまだインポートされていない場合は、SQL Server 管理パックをインポートします。
2. アカウント タイプが "Windows" の SSRSMonitoring、SSRSDiscovery、および SSRSSDK 実行アカウントを作成します。実行アカウントの作成方法の詳細については、「[Operations Manager 2007 で実行アカウントを作成する方法](http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkId=193877)」または「[Operations Manager 2012 で実行アカウントを作成する方法](http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkId=717832)」を参照してください。実行アカウントの種類の詳細については、「[Operations Manager 2007 の実行アカウントと実行プロファイル](http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkId=193879)」または「[実行アカウントと実行プロファイルの管理](http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkId=717833)」を参照してください。
3. System Center Operations Manager コンソールで、次のように実行プロファイルを構成します。
   1. “Microsoft SQL Server 2016 検出実行プロファイル” 実行プロファイルを、SSRSDiscovery 実行アカウントを使用するように設定します。
   2. “Microsoft SQL Server 2016 監視実行プロファイル” 実行プロファイルを、SSRSMonitoring 実行アカウントを使用するように設定します。
   3. “Microsoft SQL Server 2016 SCOM SDK 実行プロファイル” 実行プロファイルを、SSRSSDK 実行アカウントを使用するように設定します。

## Operations Manager コンソールによる情報の表示

### バージョンに依存しない (汎用) ビューとダッシュボード

この監視パックは、SQL Server 2014 用監視パックの初回リリースで導入された共通のフォルダー構造を使用します。次のビューとダッシュボードは、バージョンに依存せず、SQL Server のすべてのバージョンに関する情報を表示します。

Microsoft SQL Server

アクティブな警告

SQL Server ロール



概要

コンピューター

タスクの状態



「SQL Server ロール」ダッシュ ボードは、SQL Server データベース エンジン、SQL Server Reporting Services、SQL Server Analysis Services および SQL Server Integration Services のすべてのインスタンスに関する情報を提供します。



### SQL Server 2016 Reporting Services ビュー

SQL Server 2016 Reporting Services (ネイティブ モード) 用 Microsoft System Center 管理パックには、専用のフォルダーに格納された、状態、パフォーマンス、およびアラート ビューの包括的なセットが導入されています。

監視

Microsoft SQL Server

SQL Server Reporting Services

**Reporting Services 2016**

注

ビューの完全な一覧については、このガイドの「[付録: 監視パックのビューとダッシュボード](#_Appendix:_Monitoring_Pack_1)」セクションを参照してください。

注

一部のビューには、オブジェクトまたはメトリックの非常に長いリストが含まれている場合があります。特定のオブジェクトまたはオブジェクトのグループを見つけるには、Operations Manager ツール バーの [スコープ]、[検索]、および [検索] ボタンを使用できます。詳細については、Operations Manager ヘルプの 「[Operations Manager コンソールでのデータとオブジェクトの検索](http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkId=717834)」の記事を参照してください。

### ダッシュボード

この監視パックには、SQL Server 2016 Reporting Services インスタンスと展開に関する詳細情報を提供する豊富なダッシュボードのセットが含まれています。

注

詳細については、SQLServerDashboards.doc を参照してください。

## リンク

以下のリンクから、System Center 監視パックに関連する一般的なタスクに関する情報が得られます。

1. [管理パックのライフ サイクル](http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkId=717835)
2. [Operations Manager 管理パックをインポートする方法](http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkId=717831)
3. [上書き用管理パックの作成](http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkId=717836)
4. [実行アカウントと実行プロファイルの管理](http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkId=717833)
5. [Operations Manager 管理パックをエクスポートする方法](http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkId=717837)
6. [Operations Manager 管理パックを削除する方法](http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkId=717838)

既に管理パックの基本機能にある程度慣れており、サービス パックの知識を広げたいと考えている場合は、Microsoft Virtual Academy (MVA) の 「[System Center 2012 R2 Operations Manager 管理パック](http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkId=717838)コース」をご覧ください。

Operations Manager および監視パックに関する質問については、「[System Center Operations Manager コミュニティ フォーラム](http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkID=179635)」(<http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkID=179635>) を参照してください。

重要

Microsoft 以外のサイトのすべての情報と内容は、その Web サイトの所有者またはユーザーによって提供されています。Microsoft はこの Web サイトの情報について、明示、黙示、または法定を問わず、一切保証しません。

## 付録: 監視パックのビューとダッシュボード

Microsoft SQL Server

アクティブな警告

SQL Server ロール

概要

コンピューター

タスクの状態

SQL Server Reporting Services

Reporting Services 2016

アクティブな警告

概要

展開

インスタンス

パフォーマンス

展開パフォーマンス

インスタンス パフォーマンス

## 付録: 監視パックのオブジェクトとワークフロー

### ヘルス サービス

このタイプは、System Center ヘルス サービスを表します。

#### ヘルス サービス - 検出

**SSRS 2016: ネイティブ モード展開検出**

このルールは、SSRS 2016 ネイティブ モード展開のすべてのインスタンスを検出します。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  | |  |  |  | | --- | --- | --- | | **名前** | **説明** | **既定値** | | 有効 |  | はい | | 間隔 (秒) | ワークフローを実行する定期的な間隔 (秒)。 | 14400 | | 同期時刻 | 24 時間形式で指定した同期時刻。省略可能です。 |  | | タイムアウト (秒) | ワークフローが終了して失敗とマークされるまでの許容実行時間を指定します。 | 300 | |  |
|  |  |  |

### Microsoft SQL Server 2016 Reporting Services (ネイティブ モード)

Microsoft SQL Server 2016 Reporting Services (ネイティブ モード)

#### Microsoft SQL Server 2016 Reporting Services (ネイティブ モード) - 検出

**SSRS 2016: Microsoft SQL Server 2016 Reporting Services (ネイティブ モード) 検出**

このルールは、すべての Microsoft SQL Server 2016 Reporting Services (ネイティブ モード) インスタンスを検出します。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  | |  |  |  | | --- | --- | --- | | **名前** | **説明** | **既定値** | | 有効 |  | はい | | 間隔 (秒) | ワークフローを実行する定期的な間隔 (秒)。 | 14400 | | 同期時刻 | 24 時間形式で指定した同期時刻。省略可能です。 |  | | タイムアウト (秒) | ワークフローが終了して失敗とマークされるまでの許容実行時間を指定します。 | 300 | |  |
|  |  |  |

#### Microsoft SQL Server 2016 Reporting Services (ネイティブ モード) - ユニット モニター

**SSRS インスタンスによって消費されるメモリ**

SSRS プロセスによるメモリ使用量が WorkingSetMaximum 設定で定義された制限に近付くと、モニターは警告を出します。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  | |  |  |  | | --- | --- | --- | | **名前** | **説明** | **既定値** | | 有効 |  | 可 | | 警告の生成 |  | True | | 重大しきい値 | 監視されている値が重大なしきい値を超えると、モニターの状態が重大に変わります。 | 90 | | 間隔 (秒) | ワークフローを実行する定期的な間隔 (秒)。 | 900 | | 同期時刻 | 24 時間形式で指定した同期時刻。省略可能です。 |  | | タイムアウト (秒) | ワークフローが終了して失敗とマークされるまでの許容実行時間を指定します。 | 300 | | 警告しきい値 | 監視されている値が警告しきい値と重大なしきい値の間になると、モニターの状態が警告に変わります。 | 80 | |  |
|  |  |  |

**Web サービス アクセス可能**

監視ワークフローが SSRS Web サービスに接続できない場合、モニターは警告を生成します。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  | |  |  |  | | --- | --- | --- | | **名前** | **説明** | **既定値** | | 有効 |  | 可 | | 警告の生成 |  | True | | 無視されたステータス コードの検査 | このパラメーターにより、明確に無効なステータス コードを持つ Web サービスからの応答が有効なものとして渡される必要があるかどうかを確認できます。セミコロンで区切ると、有効なコードの一覧を設定することができます。 |  | | 間隔 (秒) | ワークフローを実行する定期的な間隔 (秒)。 | 300 | | サンプル数 | 測定値が何回しきい値に違反すると状態変更が生じるかを示します。 | 6 | | 同期時刻 | 24 時間形式で指定した同期時刻。省略可能です。 |  | | Web 接続のタイムアウト | 指定された期間中に Web リソースにアクセスできなかった場合、ワークフローは失敗し、イベントが登録されます。 | 200 | | タイムアウト (秒) | ワークフローが終了して失敗とマークされるまでの許容実行時間を指定します。 | 300 | |  |
|  |  |  |

レポート マネージャー アクセス可能

監視ワークフローが SSRS レポート マネージャーに接続できない場合、モニターは警告を生成します。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  | |  |  |  | | --- | --- | --- | | **名前** | **説明** | **既定値** | | 有効 |  | 可 | | 警告の生成 |  | True | | 無視されたステータス コードの検査 | このパラメーターにより、明確に無効なステータス コードを持つ Web サービスからの応答が有効なものとして渡される必要があるかどうかを確認できます。セミコロンで区切ると、有効なコードの一覧を設定することができます。 |  | | 間隔 (秒) | ワークフローを実行する定期的な間隔 (秒)。 | 300 | | サンプル数 | 測定値が何回しきい値に違反すると状態変更が生じるかを示します。 | 6 | | 同期時刻 | 24 時間形式で指定した同期時刻。省略可能です。 |  | | Web 接続のタイムアウト | 指定された期間中に Web リソースにアクセスできなかった場合、ワークフローは失敗し、イベントが登録されます。 | 200 | | タイムアウト (秒) | ワークフローが終了して失敗とマークされるまでの許容実行時間を指定します。 | 300 | |  |
|  |  |  |

**インスタンスの構成の状態**

モニターは、SSRS インスタンスに特定の構成の問題がある場合に、アラートを生成します。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  | |  |  |  | | --- | --- | --- | | **名前** | **説明** | **既定値** | | 有効 |  | いいえ | | 警告の生成 |  | True | | 間隔 (秒) | ワークフローを実行する定期的な間隔 (秒)。 | 900 | | 同期時刻 | 24 時間形式で指定した同期時刻。省略可能です。 |  | | タイムアウト (秒) | ワークフローが終了して失敗とマークされるまでの許容実行時間を指定します。 | 300 | |  |
|  |  |  |

**Windows サービスの状態**

SSRS Windows サービスが実行状態にない時間がしきい値を超えると、モニターは警告を出します。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  | |  |  |  | | --- | --- | --- | | **名前** | **説明** | **既定値** | | 有効 |  | 可 | | 警告の生成 |  | True | | サービスのスタートアップの種類が [自動] の場合にのみ警告 | この値は、'true' または 'false' にのみ設定できます。 このパラメーターが 'false' に設定されている場合、ワークフローは、サービスのスタートアップの種類に関する現在の設定を考慮に入れません。既定値は 'true' です。 | true | | 間隔 (秒) | ワークフローを実行する定期的な間隔 (秒)。 | 60 | | サンプル数 | 測定値が何回しきい値に違反すると状態変更が生じるかを示します。 | 15 | | 同期時刻 | 24 時間形式で指定した同期時刻。省略可能です。 |  | | タイムアウト (秒) | ワークフローが終了して失敗とマークされるまでの許容実行時間を指定します。 | 300 | |  |
|  |  |  |

**CPU 使用率 (%)**

SSRS プロセスによる CPU 使用率が 100% に近付くと、モニターは警告を出します。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  | |  |  |  | | --- | --- | --- | | **名前** | **説明** | **既定値** | | 有効 |  | 可 | | 警告の生成 |  | True | | 間隔 (秒) | ワークフローを実行する定期的な間隔 (秒)。 | 300 | | サンプル数 | 測定値が何回しきい値に違反すると状態変更が生じるかを示します。 | 6 | | 同期時刻 | 24 時間形式で指定した同期時刻。省略可能です。 |  | | しきい値 | SSRS プロセスによる CPU 使用率がしきい値を超えると、モニターは警告を出します。 | 95 | | タイムアウト (秒) | ワークフローが終了して失敗とマークされるまでの許容実行時間を指定します。 | 300 | |  |
|  |  |  |

**他のものによって消費されるメモリ**

SSRS 以外のプロセスが消費するメモリが原因で、SSRS が WorkingSetMinimum 設定で規定されている量のメモリを割り当てることができない場合、モニターは警告を出します。モニターは次の式を使用して状態を判別します。  
({WorkingSetMinimum} + {他のものによって消費されるメモリ})\*100/{合計メモリ} < {しきい値 (%)}

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  | |  |  |  | | --- | --- | --- | | **名前** | **説明** | **既定値** | | 有効 |  | 可 | | 警告の生成 |  | True | | 間隔 (秒) | ワークフローを実行する定期的な間隔 (秒)。 | 900 | | サンプル数 | 正常性状態は、しきい値違反数が違反の最小数以上になると変更されます。 | 4 | | 同期時刻 | 24 時間形式で指定した同期時刻。省略可能です。 |  | | しきい値 | SSRS 以外のプロセスが消費するメモリと WorkingSetMinimum の値との合計 (サーバー メモリの合計に対するパーセンテージで表す) がしきい値を超えると、モニターは警告を出します。 | 100 | | タイムアウト (秒) | ワークフローが終了して失敗とマークされるまでの許容実行時間を指定します。 | 300 | |  |
|  |  |  |

**一時データベース アクセス可能**

インスタンスが Reporting Services 一時データベースに接続できなかった場合、モニターは警告を生成します。注: このモニターは、既定では無効になっています。必要に応じて上書きを使用し、モニターを有効にしてください。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  | |  |  |  | | --- | --- | --- | | **名前** | **説明** | **既定値** | | 有効 |  | いいえ | | 警告の生成 |  | True | | 間隔 (秒) | ワークフローを実行する定期的な間隔 (秒)。 | 900 | | 同期時刻 | 24 時間形式で指定した同期時刻。省略可能です。 |  | | データベース接続のタイムアウト | 指定された期間中にデータベースにアクセスできなかった場合、ワークフローは失敗し、イベントが登録されます。 | 200 | | タイムアウト (秒) | ワークフローが終了して失敗とマークされるまでの許容実行時間を指定します。 | 300 | |  |
|  |  |  |

**データベース アクセス可能**

監視ワークフローが Reporting Services データベースにアクセスできない場合、モニターは警告を生成します。注: このモニターは、既定では無効になっています。必要に応じて上書きを使用し、モニターを有効にしてください。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  | |  |  |  | | --- | --- | --- | | **名前** | **説明** | **既定値** | | 有効 |  | いいえ | | 警告の生成 |  | True | | 間隔 (秒) | ワークフローを実行する定期的な間隔 (秒)。 | 900 | | 同期時刻 | 24 時間形式で指定した同期時刻。省略可能です。 |  | | データベース接続のタイムアウト | 指定された期間中にデータベースにアクセスできなかった場合、ワークフローは失敗し、イベントが登録されます。 | 200 | | タイムアウト (秒) | ワークフローが終了して失敗とマークされるまでの許容実行時間を指定します。 | 300 | |  |
|  |  |  |

**SQL Server との構成の競合**

サーバーで実行されている SQL Server プロセスがあり、SSRS インスタンスの WorkingSetMaximum 設定では SQL Server プロセスが十分なメモリを使用できない場合、モニターは警告を出します。注: このモニターは、既定では無効になっています。必要に応じて上書きを使用し、モニターを有効にしてください。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  | |  |  |  | | --- | --- | --- | | **名前** | **説明** | **既定値** | | 有効 |  | いいえ | | 警告の生成 |  | True | | 間隔 (秒) | ワークフローを実行する定期的な間隔 (秒)。 | 604800 | | 同期時刻 | 24 時間形式で指定した同期時刻。省略可能です。 |  | | しきい値 | SSRS と SQL Server が同じボックスで実行されており、WorkingSetMaximum がしきい値を超える場合、モニターの状態が変化し、警告が登録されます。 | 40 | | タイムアウト (秒) | ワークフローが終了して失敗とマークされるまでの許容実行時間を指定します。 | 300 | |  |
|  |  |  |

レポート実行の失敗数

モニターは、1 分あたりのレポート実行の失敗数が、絶対値で表現されたしきい値を超えていないか確認します。モニターは警告を生成し、連続するいくつかのチェックが失敗した場合にのみ、その状態を変更します。注: このモニターは、既定では無効になっています。必要に応じて上書きを使用し、モニターを有効にしてください。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  | |  |  |  | | --- | --- | --- | | **名前** | **説明** | **既定値** | | 有効 |  | いいえ | | 警告の生成 |  | True | | 間隔 (秒) | ワークフローを実行する定期的な間隔 (秒)。 | 300 | | サンプル数 | 測定値が何回しきい値に違反すると状態変更が生じるかを示します。 | 6 | | 同期時刻 | 24 時間形式で指定した同期時刻。省略可能です。 |  | | しきい値 | モニターは、1 分あたりのレポート実行の失敗数が、絶対値で表現されたしきい値を超えていないか確認します。 | 100 | | データベース接続のタイムアウト | 指定された期間中にデータベースにアクセスできなかった場合、ワークフローは失敗し、イベントが登録されます。 | 200 | | タイムアウト (秒) | ワークフローが終了して失敗とマークされるまでの許容実行時間を指定します。 | 300 | |  |
|  |  |  |

#### Microsoft SQL Server 2016 Reporting Services (ネイティブ モード) - ルール (非警告)

**SSRS 2016: レポート実行数/分**

ルールは、指定された SSRS インスタンスにおける 1 分あたりのレポート実行数を収集します。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  | |  |  |  | | --- | --- | --- | | **名前** | **説明** | **既定値** | | 有効 |  | 可 | | 警告の生成 |  | いいえ | | 間隔 (秒) | ワークフローを実行する定期的な間隔 (秒)。 | 900 | | 同期時刻 | 24 時間形式で指定した同期時刻。省略可能です。 |  | | データベース接続のタイムアウト | 指定された期間中にデータベースにアクセスできなかった場合、ワークフローは失敗し、イベントが登録されます。 | 200 | | タイムアウト (秒) | ワークフローが終了して失敗とマークされるまでの許容実行時間を指定します。 | 300 | |  |
|  |  |  |

**SSRS 2016: 失敗したレポート実行数/分**

ルールは、指定された SSRS インスタンスにおける 1 分あたりのレポート実行の失敗数を収集します。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  | |  |  |  | | --- | --- | --- | | **名前** | **説明** | **既定値** | | 有効 |  | 可 | | 警告の生成 |  | いいえ | | 間隔 (秒) | ワークフローを実行する定期的な間隔 (秒)。 | 900 | | 同期時刻 | 24 時間形式で指定した同期時刻。省略可能です。 |  | | データベース接続のタイムアウト | 指定された期間中にデータベースにアクセスできなかった場合、ワークフローは失敗し、イベントが登録されます。 | 200 | | タイムアウト (秒) | ワークフローが終了して失敗とマークされるまでの許容実行時間を指定します。 | 300 | |  |
|  |  |  |

**SSRS 2016: SSRS によるメモリ消費量 (GB)**

ルールは、指定された SSRS インスタンスによって消費されるメモリの量を収集します。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  | |  |  |  | | --- | --- | --- | | **名前** | **説明** | **既定値** | | 有効 |  | 可 | | 警告の生成 |  | いいえ | | 間隔 (秒) | ワークフローを実行する定期的な間隔 (秒)。 | 900 | | 同期時刻 | 24 時間形式で指定した同期時刻。省略可能です。 |  | | タイムアウト (秒) | ワークフローが終了して失敗とマークされるまでの許容実行時間を指定します。 | 300 | |  |
|  |  |  |

**SSRS 2016: WorkingSetMaximum (GB)**

ルールは、インスタンスの WorkingSetMaximum 設定の構成を GB (ギガバイト) 単位で収集します。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  | |  |  |  | | --- | --- | --- | | **名前** | **説明** | **既定値** | | 有効 |  | 可 | | 警告の生成 |  | いいえ | | 間隔 (秒) | ワークフローを実行する定期的な間隔 (秒)。 | 900 | | 同期時刻 | 24 時間形式で指定した同期時刻。省略可能です。 |  | | タイムアウト (秒) | ワークフローが終了して失敗とマークされるまでの許容実行時間を指定します。 | 300 | |  |
|  |  |  |

**SSRS 2016: CPU 使用率 (%)**

ルールは、SSRS インスタンスによる CPU 使用率を収集します。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  | |  |  |  | | --- | --- | --- | | **名前** | **説明** | **既定値** | | 有効 |  | 可 | | 警告の生成 |  | いいえ | | 間隔 (秒) | ワークフローを実行する定期的な間隔 (秒)。 | 300 | | 同期時刻 | 24 時間形式で指定した同期時刻。省略可能です。 |  | | タイムアウト (秒) | ワークフローが終了して失敗とマークされるまでの許容実行時間を指定します。 | 300 | |  |
|  |  |  |

**SSRS 2016: サーバー上のメモリ消費量合計 (GB)**

ルールは、インスタンスがあるコンピューター上で使用されているメモリの合計サイズを GB (ギガバイト) 単位で収集します。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  | |  |  |  | | --- | --- | --- | | **名前** | **説明** | **既定値** | | 有効 |  | 可 | | 警告の生成 |  | いいえ | | 間隔 (秒) | ワークフローを実行する定期的な間隔 (秒)。 | 900 | | 同期時刻 | 24 時間形式で指定した同期時刻。省略可能です。 |  | | タイムアウト (秒) | ワークフローが終了して失敗とマークされるまでの許容実行時間を指定します。 | 300 | |  |
|  |  |  |

**SSRS 2016: WorkingSetMinimum (GB)**

ルールは、指定された SSRS インスタンスの WorkingSetMinimum 設定の値を GB (ギガバイト) 単位で収集します。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  | |  |  |  | | --- | --- | --- | | **名前** | **説明** | **既定値** | | 有効 |  | 可 | | 警告の生成 |  | いいえ | | 間隔 (秒) | ワークフローを実行する定期的な間隔 (秒)。 | 900 | | 同期時刻 | 24 時間形式で指定した同期時刻。省略可能です。 |  | | タイムアウト (秒) | ワークフローが終了して失敗とマークされるまでの許容実行時間を指定します。 | 300 | |  |
|  |  |  |

**SSRS 2016: 他のプロセスによるメモリ消費量 (%)**

ルールは、インスタンス上の他のプロセスによるメモリ使用量を収集します。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  | |  |  |  | | --- | --- | --- | | **名前** | **説明** | **既定値** | | 有効 |  | 可 | | 警告の生成 |  | いいえ | | 間隔 (秒) | ワークフローを実行する定期的な間隔 (秒)。 | 900 | | 同期時刻 | 24 時間形式で指定した同期時刻。省略可能です。 |  | | タイムアウト (秒) | ワークフローが終了して失敗とマークされるまでの許容実行時間を指定します。 | 300 | |  |
|  |  |  |

**SSRS 2016: サーバー上のメモリ合計 (GB)**

ルールは、インスタンスがあるコンピューター上のメモリの合計サイズを GB (ギガバイト) 単位で収集します。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  | |  |  |  | | --- | --- | --- | | **名前** | **説明** | **既定値** | | 有効 |  | 可 | | 警告の生成 |  | いいえ | | 間隔 (秒) | ワークフローを実行する定期的な間隔 (秒)。 | 900 | | 同期時刻 | 24 時間形式で指定した同期時刻。省略可能です。 |  | | タイムアウト (秒) | ワークフローが終了して失敗とマークされるまでの許容実行時間を指定します。 | 300 | |  |
|  |  |  |

### Microsoft SQL Server 2016 Reporting Services インスタンス シード

これは Microsoft SQL Server 2016 Reporting Services (ネイティブ モード) のインストール シードです。このオブジェクトは特定のサーバー コンピューターに Microsoft SQL Server 2016 Reporting Services (ネイティブ モード) のインストールが含まれていることを示します。

#### Microsoft SQL Server 2016 Reporting Services インスタンス シード - 検出

**SSRS 2016: ネイティブ モード展開検出**

このルールは、SSRS 2016 ネイティブ モード展開のすべてのインスタンスを検出します。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  | |  |  |  | | --- | --- | --- | | **名前** | **説明** | **既定値** | | 有効 |  | はい | | 間隔 (秒) | ワークフローを実行する定期的な間隔 (秒)。 | 14400 | | 同期時刻 | 24 時間形式で指定した同期時刻。省略可能です。 |  | | タイムアウト (秒) | ワークフローが終了して失敗とマークされるまでの許容実行時間を指定します。 | 300 | |  |
|  |  |  |

**SSRS 2016: Microsoft SQL Server Reporting Services (ネイティブ モード) シード検出**

このルールは、Reporting Services をインストールするためのシードを検出します。このオブジェクトは、特定のサーバー コンピューターに Reporting Services (ネイティブ モード) のインストールが含まれていることを示します。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  | |  |  |  | | --- | --- | --- | | **名前** | **説明** | **既定値** | | 有効 |  | はい | | 秒単位による頻度 |  | 14400 | |  |
|  |  |  |

#### Microsoft SQL Server 2016 Reporting Services インスタンス シード - ルール (非警告)

**SSRS 2016: SSRS 2016 MP マネージ モジュールの実行中にエラーが発生しました**

ルールはイベント ログを監視し、SSRS 2016 管理パックによって送信されるエラー イベントの発生を監視します。ワークフローのいずれか (検出、ルール、または監視) が失敗すると、イベントがログに記録されて重要な警告が報告されます。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  | |  |  |  | | --- | --- | --- | | **名前** | **説明** | **既定値** | | 有効 |  | 可 | | 警告の生成 |  | 可 | | [Priority] |  | 2 | | Severity |  | 2 | |  |
|  |  |  |

### サーバー ロール グループ

サーバー ロール グループには、Database Engine、Analysis Services インスタンス、Reporting Service インスタンスなど、SQL Server のすべてのルート オブジェクトが含まれます。

#### サーバー ロール グループ - 検出

**SSRS 2016: サーバー ロール グループの検出**

このオブジェクト検出は、Database Engine、Analysis Services インスタンス、Reporting Service インスタンスなど、SQL Server のすべてのルート オブジェクトをサーバー ロール グループに含めます。

### SQL Server アラート スコープ グループ

SQL Server 警告スコープ グループには、SQL Server のオブジェクトのうち、警告を生成する可能性のあるものが含まれます。

#### SQL Server アラート スコープ グループ - 検出

**SSRS 2016: 警告スコープ グループの検出**

このオブジェクト検出は、SQL Server のオブジェクトのうち、警告を生成する可能性のあるものをすべてアラート スコープ グループに含めます。

### SQL Server コンピューター

このグループには、Microsoft SQL Server のコンポーネントが実行されているすべての Windows コンピューターが含まれます。

#### SQL Server コンピューター - 検出

**SSRS 2016: SQL Server Reporting Servicesコンピューター グループのメンバーシップの検出**

Microsoft SQL Server のコンポーネントを実行しているすべてのコンピューターをコンピューター グループに追加します。

### SSRS 2016 展開

Reporting Services (ネイティブ モード) では、1 つのレポート サーバー データベースを共有する複数のレポート サーバー インスタンスを実行できる、スケールアウト配置モデルがサポートされています。スケールアウト配置は、レポート サーバーのスケーラビリティを高めて、処理できる同時ユーザー数を増やしたり、より負荷の高いレポート実行に対応できるようにするために使用されます。また、特定のサーバーを、対話型レポートまたはスケジュールされたレポートの処理専用にする場合にも使用できます。

#### SSRS 2016 展開 - 検出

**SSRS 2016: ネイティブ モード展開検出**

このルールは、SSRS 2016 ネイティブ モード展開のすべてのインスタンスを検出します。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  | |  |  |  | | --- | --- | --- | | **名前** | **説明** | **既定値** | | 有効 |  | はい | | 間隔 (秒) | ワークフローを実行する定期的な間隔 (秒)。 | 14400 | | 同期時刻 | 24 時間形式で指定した同期時刻。省略可能です。 |  | | タイムアウト (秒) | ワークフローが終了して失敗とマークされるまでの許容実行時間を指定します。 | 300 | |  |
|  |  |  |

#### SSRS 2016 展開 - ユニット モニター

すべての展開インスタンスが検出済みです

指定された SSRS 展開で未検出の SSRS インスタンスがあった場合、モニターは警告を生成します。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  | |  |  |  | | --- | --- | --- | | **名前** | **説明** | **既定値** | | 有効 |  | 可 | | 警告の生成 |  | True | | 間隔 (秒) | ワークフローを実行する定期的な間隔 (秒)。 | 604800 | | 同期時刻 | 24 時間形式で指定した同期時刻。省略可能です。 |  | | 不一致のインスタンス数のしきい値 | 不一致のインスタンス数が指定された値以上である場合、モニターは警告を作成します。 | 1 | | タイムアウト (秒) | ワークフローが終了して失敗とマークされるまでの許容実行時間を指定します。 | 300 | |  |
|  |  |  |

#### SSRS 2016 展開 - 依存関係 (ロールアップ) モニター

**展開ウォッチャー構成 (ロールアップ)**

Microsoft SQL Server 2016 Reporting Services 展開ウォッチャー構成正常性ロールアップ モニター

**インスタンス パフォーマンス (ロールアップ)**

Microsoft SQL Server 2016 Reporting Services Reporting Services インスタンス パフォーマンス正常性ロールアップ モニター

**インスタンス構成 (ロールアップ)**

Microsoft SQL Server 2016 Reporting Services の Reporting Services インスタンス構成正常性ロールアップ モニター

**展開ウォッチャー パフォーマンス (ロールアップ)**

Microsoft SQL Server 2016 Reporting Services 展開ウォッチャー パフォーマンス正常性ロールアップ モニター

**データベース構成 (ロールアップ)**

Microsoft SQL Server 2016 Reporting Services データベース構成正常性ロールアップ モニター

**データベース パフォーマンス (ロールアップ)**

Microsoft SQL Server 2016 Reporting Services データベース パフォーマンス正常性ロールアップ モニター

**展開ウォッチャー可用性 (ロールアップ)**

Microsoft SQL Server 2016 Reporting Services 展開ウォッチャー可用性正常性ロールアップ モニター

**インスタンス可用性 (ロールアップ)**

Microsoft SQL Server 2016 Reporting Services の Reporting Services インスタンス可用性正常性ロールアップ モニター

**インスタンス セキュリティ (ロールアップ)**

Microsoft SQL Server 2016 Reporting Services の Reporting Services インスタンス セキュリティ正常性ロールアップ モニター

**データベース セキュリティ (ロールアップ)**

Microsoft SQL Server 2016 Reporting Services データベース セキュリティ正常性ロールアップ モニター

**データベース可用性 (ロールアップ)**

Microsoft SQL Server 2016 Reporting Services データベース可用性正常性ロールアップ モニター

**展開ウォッチャー セキュリティ (ロールアップ)**

Microsoft SQL Server 2016 Reporting Services 展開ウォッチャー セキュリティ正常性ロールアップ モニター

### SSRS 2016 展開シード

これは Microsoft SQL Server 2016 Reporting Services (ネイティブ モード) の展開インストール シードです。このオブジェクトは、管理対象環境内に展開が存在することを示します。このオブジェクトはホストされず、SCOM 管理サーバーによって管理されます。

#### SSRS 2016 展開シード - 検出

**SSRS 2016: 展開シード検出**

このルールは Microsoft SQL Server 2016 Reporting Services (ネイティブ モード) の展開シードを検出します。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  | |  |  |  | | --- | --- | --- | | **名前** | **説明** | **既定値** | | 有効 |  | はい | | 間隔 (秒) | ワークフローを実行する定期的な間隔 (秒)。 | 14400 | | 同期時刻 | 24 時間形式で指定した同期時刻。省略可能です。 |  | | データベース接続のタイムアウト | 指定された期間中にデータベースにアクセスできなかった場合、ワークフローは失敗し、イベントが登録されます。 | 200 | | タイムアウト (秒) | ワークフローが終了して失敗とマークされるまでの許容実行時間を指定します。 | 300 | |  |
|  |  |  |

### SSRS 2016 展開ウォッチャー

展開ウォッチャーは隠しオブジェクトであり、展開オブジェクトの監視ワークフローを実行するターゲットとして使用されます。展開ウォッチャーはホストされていないオブジェクトです。このオブジェクトの管理には、SSRS カタログ データベースをホストするサーバーが使用されます。このデータベースをホストするサーバーにエージェントがインストールされていない場合、SSRS サーバーの 1 つが、各ワークフローを実行する責任を担います。

#### SSRS 2016 展開ウォッチャー - 検出

**SSRS 2016: ネイティブ モード展開検出**

このルールは、SSRS 2016 ネイティブ モード展開のすべてのインスタンスを検出します。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  | |  |  |  | | --- | --- | --- | | **名前** | **説明** | **既定値** | | 有効 |  | はい | | 間隔 (秒) | ワークフローを実行する定期的な間隔 (秒)。 | 14400 | | 同期時刻 | 24 時間形式で指定した同期時刻。省略可能です。 |  | | タイムアウト (秒) | ワークフローが終了して失敗とマークされるまでの許容実行時間を指定します。 | 300 | |  |
|  |  |  |

#### SSRS 2016 展開ウォッチャー - ユニット モニター

レポート実行の失敗数

レポート実行の総数に対するレポート実行の失敗数のパーセンテージがしきい値を超えると、モニターは警告を出します。モニターは警告を生成し、連続するいくつかのチェックが失敗した場合にのみ、その状態を変更します。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  | |  |  |  | | --- | --- | --- | | **名前** | **説明** | **既定値** | | 有効 |  | 可 | | 警告の生成 |  | True | | 間隔 (秒) | ワークフローを実行する定期的な間隔 (秒)。 | 300 | | サンプル数 | 測定値が何回しきい値に違反すると状態変更が生じるかを示します。 | 6 | | 同期時刻 | 24 時間形式で指定した同期時刻。省略可能です。 |  | | しきい値 | レポート実行の総数に対するレポート実行の失敗数のパーセンテージがしきい値を超えると、モニターは警告を出します。 | 50 | | データベース接続のタイムアウト | 指定された期間中にデータベースにアクセスできなかった場合、ワークフローは失敗し、イベントが登録されます。 | 200 | | タイムアウト (秒) | ワークフローが終了して失敗とマークされるまでの許容実行時間を指定します。 | 300 | |  |
|  |  |  |

**一時データベース アクセス可能**

配置ウォッチャーが Reporting Services 一時データベースに接続できない場合、モニターは警告を生成します。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  | |  |  |  | | --- | --- | --- | | **名前** | **説明** | **既定値** | | 有効 |  | 可 | | 警告の生成 |  | True | | 間隔 (秒) | ワークフローを実行する定期的な間隔 (秒)。 | 900 | | 同期時刻 | 24 時間形式で指定した同期時刻。省略可能です。 |  | | データベース接続のタイムアウト | 指定された期間中にデータベースにアクセスできなかった場合、ワークフローは失敗し、イベントが登録されます。 | 200 | | タイムアウト (秒) | ワークフローが終了して失敗とマークされるまでの許容実行時間を指定します。 | 300 | |  |
|  |  |  |

**データベース アクセス可能**

展開ウォッチャーが Reporting Services データベースに接続できない場合、モニターの状態が変化し、警告が生成されます。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  | |  |  |  | | --- | --- | --- | | **名前** | **説明** | **既定値** | | 有効 |  | 可 | | 警告の生成 |  | True | | 間隔 (秒) | ワークフローを実行する定期的な間隔 (秒)。 | 900 | | 同期時刻 | 24 時間形式で指定した同期時刻。省略可能です。 |  | | データベース接続のタイムアウト | 指定された期間中にデータベースにアクセスできなかった場合、ワークフローは失敗し、イベントが登録されます。 | 200 | | タイムアウト (秒) | ワークフローが終了して失敗とマークされるまでの許容実行時間を指定します。 | 300 | |  |
|  |  |  |

正しく構成されていないデータ ソース

構成が間違っているデータ ソースが検出されると、モニターは警告を出します。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  | |  |  |  | | --- | --- | --- | | **名前** | **説明** | **既定値** | | 有効 |  | 可 | | 警告の生成 |  | True | | 間隔 (秒) | ワークフローを実行する定期的な間隔 (秒)。 | 604800 | | 同期時刻 | 24 時間形式で指定した同期時刻。省略可能です。 |  | | しきい値 | 構成が間違っているデータ ソースの数がしきい値を超えると、モニターの状態が変化し、警告が登録されます。 | 0 | | データベース接続のタイムアウト | 指定された期間中にデータベースにアクセスできなかった場合、ワークフローは失敗し、イベントが登録されます。 | 200 | | タイムアウト (秒) | ワークフローが終了して失敗とマークされるまでの許容実行時間を指定します。 | 300 | |  |
|  |  |  |

#### SSRS 2016 展開ウォッチャー - ルール (非警告)

**SSRS 2016: サブスクリプション数**

このルールは、SSRS 展開用に構成されたサブスクリプションの数を収集します。ルールは SSRS カタログ データベースに対してクエリを実行して、情報を入手します。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  | |  |  |  | | --- | --- | --- | | **名前** | **説明** | **既定値** | | 有効 |  | 可 | | 警告の生成 |  | いいえ | | 間隔 (秒) | ワークフローを実行する定期的な間隔 (秒)。 | 900 | | 同期時刻 | 24 時間形式で指定した同期時刻。省略可能です。 |  | | データベース接続のタイムアウト | 指定された期間中にデータベースにアクセスできなかった場合、ワークフローは失敗し、イベントが登録されます。 | 200 | | タイムアウト (秒) | ワークフローが終了して失敗とマークされるまでの許容実行時間を指定します。 | 300 | |  |
|  |  |  |

**SSRS 2016: 共有データ ソースの数**

このルールは、SSRS 展開に配置された共有データ ソースの数を収集します。ルールは SSRS カタログ データベースに対してクエリを実行して、情報を入手します。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  | |  |  |  | | --- | --- | --- | | **名前** | **説明** | **既定値** | | 有効 |  | 可 | | 警告の生成 |  | いいえ | | 間隔 (秒) | ワークフローを実行する定期的な間隔 (秒)。 | 900 | | 同期時刻 | 24 時間形式で指定した同期時刻。省略可能です。 |  | | データベース接続のタイムアウト | 指定された期間中にデータベースにアクセスできなかった場合、ワークフローは失敗し、イベントが登録されます。 | 200 | | タイムアウト (秒) | ワークフローが終了して失敗とマークされるまでの許容実行時間を指定します。 | 300 | |  |
|  |  |  |

**SSRS 2016: スケジュールされた実行の失敗数/分**

ルールは、SSRS 展開全体における 1 分あたりのスケジュールされた実行の失敗数を収集します。ルールは SSRS カタログ データベースに対してクエリを実行して、情報を入手します。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  | |  |  |  | | --- | --- | --- | | **名前** | **説明** | **既定値** | | 有効 |  | 可 | | 警告の生成 |  | いいえ | | 間隔 (秒) | ワークフローを実行する定期的な間隔 (秒)。 | 900 | | 同期時刻 | 24 時間形式で指定した同期時刻。省略可能です。 |  | | データベース接続のタイムアウト | 指定された期間中にデータベースにアクセスできなかった場合、ワークフローは失敗し、イベントが登録されます。 | 200 | | タイムアウト (秒) | ワークフローが終了して失敗とマークされるまでの許容実行時間を指定します。 | 300 | |  |
|  |  |  |

**SSRS 2016: オンデマンド実行数/分**

ルールは、SSRS 展開全体における 1 分あたりのオンデマンド実行数を収集します。ルールは SSRS カタログ データベースに対してクエリを実行して、情報を入手します。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  | |  |  |  | | --- | --- | --- | | **名前** | **説明** | **既定値** | | 有効 |  | 可 | | 警告の生成 |  | いいえ | | 間隔 (秒) | ワークフローを実行する定期的な間隔 (秒)。 | 900 | | 同期時刻 | 24 時間形式で指定した同期時刻。省略可能です。 |  | | データベース接続のタイムアウト | 指定された期間中にデータベースにアクセスできなかった場合、ワークフローは失敗し、イベントが登録されます。 | 200 | | タイムアウト (秒) | ワークフローが終了して失敗とマークされるまでの許容実行時間を指定します。 | 300 | |  |
|  |  |  |

**SSRS 2016: スケジュールされた実行数/分**

ルールは、SSRS 展開全体における 1 分あたりのスケジュールされた実行数を収集します。ルールは SSRS カタログ データベースに対してクエリを実行して、情報を入手します。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  | |  |  |  | | --- | --- | --- | | **名前** | **説明** | **既定値** | | 有効 |  | 可 | | 警告の生成 |  | いいえ | | 間隔 (秒) | ワークフローを実行する定期的な間隔 (秒)。 | 900 | | 同期時刻 | 24 時間形式で指定した同期時刻。省略可能です。 |  | | データベース接続のタイムアウト | 指定された期間中にデータベースにアクセスできなかった場合、ワークフローは失敗し、イベントが登録されます。 | 200 | | タイムアウト (秒) | ワークフローが終了して失敗とマークされるまでの許容実行時間を指定します。 | 300 | |  |
|  |  |  |

**SSRS 2016: レポート実行数/分 (展開)**

ルールは、SQL Server Reporting Services の展開全体におけるレポート実行の 1 分あたりの総数を収集します。ルールは SSRS カタログ データベースに対してクエリを実行して、情報を入手します。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  | |  |  |  | | --- | --- | --- | | **名前** | **説明** | **既定値** | | 有効 |  | 可 | | 警告の生成 |  | いいえ | | 間隔 (秒) | ワークフローを実行する定期的な間隔 (秒)。 | 900 | | 同期時刻 | 24 時間形式で指定した同期時刻。省略可能です。 |  | | データベース接続のタイムアウト | 指定された期間中にデータベースにアクセスできなかった場合、ワークフローは失敗し、イベントが登録されます。 | 200 | | タイムアウト (秒) | ワークフローが終了して失敗とマークされるまでの許容実行時間を指定します。 | 300 | |  |
|  |  |  |

**SSRS 2016: レポート数**

このルールは、SSRS 展開に配置されたレポートの数を収集します。ルールは SSRS カタログ データベースに対してクエリを実行して、情報を入手します。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  | |  |  |  | | --- | --- | --- | | **名前** | **説明** | **既定値** | | 有効 |  | 可 | | 警告の生成 |  | いいえ | | 間隔 (秒) | ワークフローを実行する定期的な間隔 (秒)。 | 900 | | 同期時刻 | 24 時間形式で指定した同期時刻。省略可能です。 |  | | データベース接続のタイムアウト | 指定された期間中にデータベースにアクセスできなかった場合、ワークフローは失敗し、イベントが登録されます。 | 200 | | タイムアウト (秒) | ワークフローが終了して失敗とマークされるまでの許容実行時間を指定します。 | 300 | |  |
|  |  |  |

**SSRS 2016: オンデマンド実行の失敗数/分**

ルールは、SSRS 展開全体における 1 分あたりのオンデマンド実行の失敗数を収集します。ルールは SSRS カタログ データベースに対してクエリを実行して、情報を入手します。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  | |  |  |  | | --- | --- | --- | | **名前** | **説明** | **既定値** | | 有効 |  | 可 | | 警告の生成 |  | いいえ | | 間隔 (秒) | ワークフローを実行する定期的な間隔 (秒)。 | 900 | | 同期時刻 | 24 時間形式で指定した同期時刻。省略可能です。 |  | | データベース接続のタイムアウト | 指定された期間中にデータベースにアクセスできなかった場合、ワークフローは失敗し、イベントが登録されます。 | 200 | | タイムアウト (秒) | ワークフローが終了して失敗とマークされるまでの許容実行時間を指定します。 | 300 | |  |
|  |  |  |

**SSRS 2016: 失敗したレポート実行数/分 (展開)**

ルールは、SQL Server Reporting Services の展開全体におけるレポート実行の 1 分あたりの失敗数を収集します。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  | |  |  |  | | --- | --- | --- | | **名前** | **説明** | **既定値** | | 有効 |  | 可 | | 警告の生成 |  | いいえ | | 間隔 (秒) | ワークフローを実行する定期的な間隔 (秒)。 | 300 | | 同期時刻 | 24 時間形式で指定した同期時刻。省略可能です。 |  | | データベース接続のタイムアウト | 指定された期間中にデータベースにアクセスできなかった場合、ワークフローは失敗し、イベントが登録されます。 | 200 | | タイムアウト (秒) | ワークフローが終了して失敗とマークされるまでの許容実行時間を指定します。 | 300 | |  |
|  |  |  |

### SSRS 2016: 警告スコープ グループ

SQL Server Reporting Services 警告スコープ グループには、SQL Server Reporting Services のオブジェクトのうち、警告を生成する可能性のあるものが含まれています。

#### SSRS 2016: 警告スコープ グループ - 検出

**SSRS 2016: ローカル警告スコープ グループの検出**

このオブジェクト検出では、ローカル警告スコープ グループを設定して、SQL Server Reporting Services のすべてのロールが含まれるようにします。

### SSRS 2016: 展開グループ

このグループには、検出されたすべての SQL Server Reporting Services 2016 展開と展開ウォッチャーのオブジェクトが含まれます。

#### SSRS 2016: 展開グループ - 検出

**SSRS 2016: 展開グループ検出**

このオブジェクト検出は、検出されたすべての SQL Server Reporting Services 2016 展開と展開ウォッチャーのオブジェクトをローカル展開グループに追加します。

### SSRS 2016: インスタンス グループ

このグループには、検出されたすべての Microsoft SQL Server 2016 Reporting Services (ネイティブ モード) のオブジェクトが含まれます。

#### SSRS 2016: インスタンス グループ - 検出

**SSRS 2016: インスタンス グループ検出**

このオブジェクト検出は、検出されたすべての Microsoft SQL Server 2016 Reporting Services (ネイティブ モード) のオブジェクトをローカル インスタンス グループに追加します。

### SSRS: 展開グループ

このグループには、検出されたすべての SQL Server Reporting Services 展開と展開ウォッチャーのオブジェクトが含まれます。

#### SSRS: 展開グループ - 検出

**SSRS 2016: グローバル展開グループ検出**

このオブジェクト検出は、検出されたすべての SQL Server Reporting Services 展開と展開ウォッチャーのオブジェクトをグローバル展開グループに追加します。

### SSRS: インスタンス グループ

このグループには、検出されたすべての Microsoft SQL Server Reporting Services (ネイティブ モード) のオブジェクトが含まれます。

#### SSRS: インスタンス グループ - 検出

**SSRS 2016: グローバル インスタンス グループ検出**

このオブジェクト検出は、検出されたすべての Microsoft SQL Server Reporting Services (ネイティブ モード) のオブジェクトをグローバル インスタンス グループに追加します。

## 付録: 実行プロファイル

| **実行プロファイル** | **ワークフローの種類** | **ワークフロー** |
| --- | --- | --- |
| Microsoft SQL Server 2016 検出実行プロファイル | 検出 | SSRS 2016: 展開シード検出 |
| 検出 | SSRS 2016: Microsoft SQL Server 2016 Reporting Services (ネイティブ モード) 検出 |
| Microsoft SQL Server 2016 SCOM SDK 実行プロファイル | 検出 | SSRS 2016: SSRS 2016 ネイティブ モード展開検出 |
| モニター | すべての展開インスタンスが検出済みです |
| Microsoft SQL Server 2016 監視実行プロファイル | モニター | SQL Server との構成の競合 |
| モニター | CPU 使用率 (%) |
| モニター | データベース アクセス可能 |
| モニター | データベース アクセス可能 |
| モニター | インスタンスの構成の状態 |
| モニター | 他のものによって消費されるメモリ |
| モニター | SSRS インスタンスによって消費されるメモリ |
| モニター | 正しく構成されていないデータ ソース |
| モニター | レポート実行の失敗数 |
| モニター | レポート実行の失敗数 |
| モニター | レポート マネージャー アクセス可能 |
| モニター | 一時データベース アクセス可能 |
| モニター | 一時データベース アクセス可能 |
| モニター | Web サービス アクセス可能 |
| モニター | Windows サービスの状態 |
| Rule | SSRS 2016: CPU 使用率 (%) |
| Rule | SSRS 2016: 失敗したレポート実行数/分 |
| Rule | SSRS 2016: 失敗したレポート実行数/分 (展開) |
| Rule | SSRS 2016: 他のプロセスによるメモリ消費量 (%) |
| Rule | SSRS 2016: SSRS によるメモリ消費量 (GB) |
| Rule | SSRS 2016: レポート数 |
| Rule | SSRS 2016: 共有データ ソースの数 |
| Rule | SSRS 2016: サブスクリプション数 |
| Rule | SSRS 2016: オンデマンド実行の失敗数/分 |
| Rule | SSRS 2016: オンデマンド実行数/分 |
| Rule | SSRS 2016: レポート実行数/分 |
| Rule | SSRS 2016: レポート実行数/分 (展開) |
| Rule | SSRS 2016: スケジュールされた実行の失敗数/分 |
| Rule | SSRS 2016: スケジュールされた実行数/分 |
| Rule | SSRS 2016: サーバー上のメモリ消費量合計 (GB) |
| Rule | SSRS 2016: サーバー上のメモリ合計 (GB) |
| Rule | SSRS 2016: WorkingSetMaximum (GB) |
| Rule | SSRS 2016: WorkingSetMinimum (GB) |

## 付録: 既知の問題とリリース ノート

##### DNS にホスト名を解決できない場合、インスタンスの検出に失敗します。

**問題:** SSRS インスタンスの検出は、次のエラーで失敗します。

SSRS instance cannot be discovered because of the following issue:

Module: Microsoft.SQLServer2016.ReportingServices.Module.Discovery.ReportingServicesNativeProperty

No such host is known

   at System.Net.Dns.InternalGetHostByName(String hostName, Boolean includeIPv6)

   at System.Net.Dns.GetHostEntry(String hostNameOrAddress)

**解決策:** ホスト名とホストの IP アドレスを DNS で解決できることを確認します。

##### すべてのサービスが停止している場合、SSRS 展開シード検出が失敗する可能性がある

**問題:** すべての SSRS インスタンスが停止しているか、対応する SSRS カタログ データベースにアクセスできない場合、SSRS 展開シード検出が失敗して、「SSRS 2016 MP マネージ モジュールの実行中にエラーが発生しました」の警告が登録されます。

**解決策:** SSRS 展開を検出し、SSRS インスタンスを開始するために使用するアカウントで使用可能なデータベースを作成します。SSRS サービスが意図的に停止されており、将来的にそれらを使用する予定がない場合、SSRS インスタンスをアンインストールするか、上書きを使用して、影響を受ける SSRS 展開の一部であるすべての SSRS インスタンスの SSRS 展開シード検出を無効にします。

##### 別の AD ドメインまたはドメインのメンバーではないサーバーに配置された SSRS インスタンスが正しく監視されない

**問題:** SSRS 展開の各種コンポーネントが、別のドメインまたはワークグループのメンバーであるサーバーに配置されている場合、SQL Server 2016 Reporting Services (ネイティブ モード) 用 Microsoft System Center 管理パックの現在のリリースが正常に動作しません。

**解決策:** 現時点では解決方法はありません。

##### MP のアップグレード時にダッシュボードがクラッシュする場合がある

**問題**: MP をバージョン 6.6.7.6 にアップグレードするときに、オペレーション コンソールに ObjectNotFoundException エラーが発生し、クラッシュする場合があります。

**解決方法**: インポート プロセスを完了するまで待機し、オペレーション コンソールを再起動します。管理パックのアップグレード後には、必ずオペレーション コンソールを再起動します。そうしない場合、ダッシュ ボードは機能しません。

##### 監視アカウントとしてローカル システムを使用するとエラーが発生する可能性がある

**問題:** 特定の構成では、監視アカウントとしてローカル システムを使用することは不十分であり、エラーが発生する可能性があります (特に、レポート マネージャー アクセス可能モニターと Web サービス アクセス可能モニターの場合)。

解決策: 監視には、適切な特権を持つドメイン ユーザーが不可欠です。